

中学生の部 大賞

小学生の頃の私は、友達とお母さんの職業の話をする事が嫌で仕方なかった。皆のお母さんは、看護師や先生といった立派な肩書があるのに、私のお母さんは、家事を黙々とこなすだけの専業主婦で、恥ずかしいと思っていたからだ。だから、友達とけんかをして、泣いて帰った私を慰めるお母さんに対して、「家の中にずっと居るお母さんには、私の辛さなど分かるわけがない」と、酷い事を言ってしまった。そんな酷い事を言った私に対して、お母さんは怒ったりせず、「一緒にクッキーを作ろう。」と誘ってきた。最初は、憂うつな気持ちで行っていた作業も工程を重ねるうちに楽しくなり、出来上がったクッキーを食べた頃には、悲しみも吹き飛んでいた。

立派な肩書はないけれど、家族皆の事を一番に考え、いつでも寄り添ってくれるお母さんは、私にとって大切な存在だ。あの時は、酷い事を言っでごめんなさい。そして、いつも家族皆の為に働いてくれてありがとう。

愛知県名古屋市中学3年生

たけやま
竹山 紗由さん